

2019年度 東京成徳大学卒業後アンケート結果の概要

教育研究改善委員会

I 調査の概要

(1) 目的

東京成徳大学が目指す「学修成果」を本学卒業生がどの程度身に付けているか、また、社会でどの程度必要とされているかを検証する。

(2) 対象

2017年度、2018年度卒業生

全体	450	臨床心理学科	63
日本伝統文化学科	24	健康・スポーツ心理学科	49
国際言語文化学科	20	子ども学科	178
福祉心理学科	21	経営学科	95

(3) 方法

卒業生保護者住所（当時）へ郵送によるアンケート送付及び回収

(4) 期間

2019年12月16日～2020年1月20日

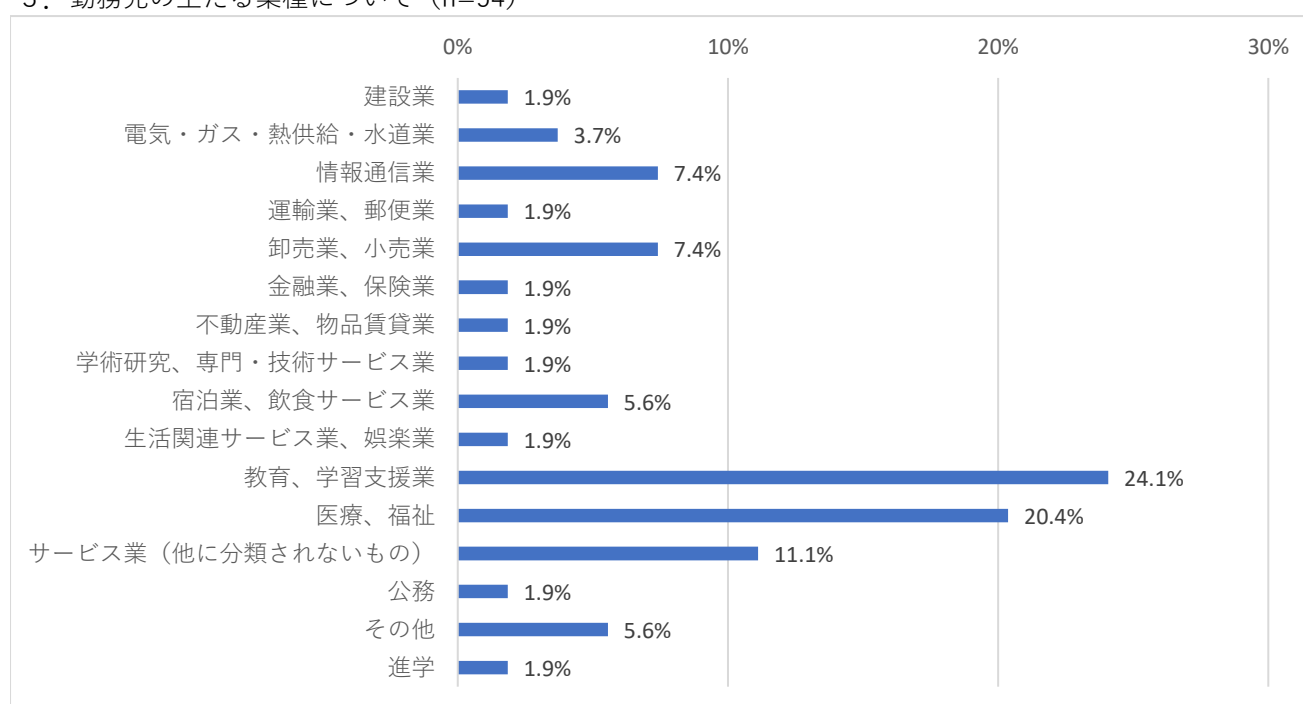
(5) 回収状況

	返送数	返送率	男	女	不明
全体	54	12.0%	(2018年度返送率：11.6%)		
日本伝統文化学科	1	4.2%	1		
国際言語文化学科	3	15.0%		3	
福祉心理学科	1	4.8%		1	
臨床心理学科	7	11.1%	4	3	
健康・スポーツ心理学科	4	8.2%	2	1	1
子ども学科	30	16.9%	5	22	3
経営学科	8	8.4%	4	4	

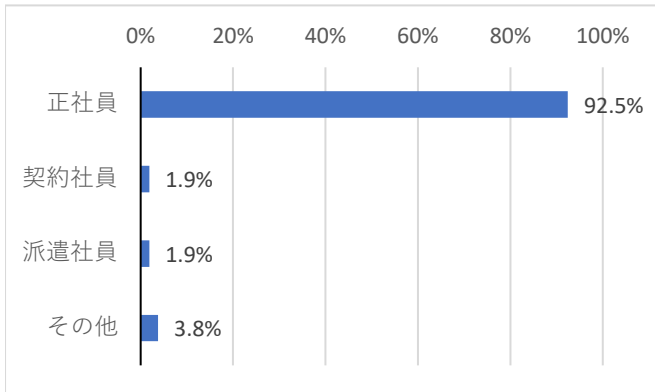
(注) 宛先不明による返送：26件。年度別・学科別の送付者数の詳細は末尾の参考資料参照。

II 勤務先及び勤務状況について

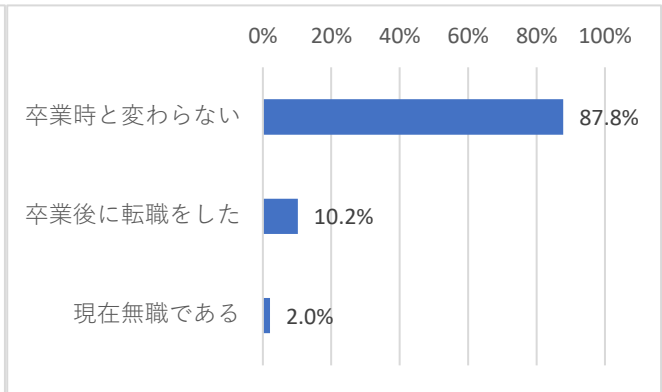
3. 勤務先の主たる業種について (n=54)



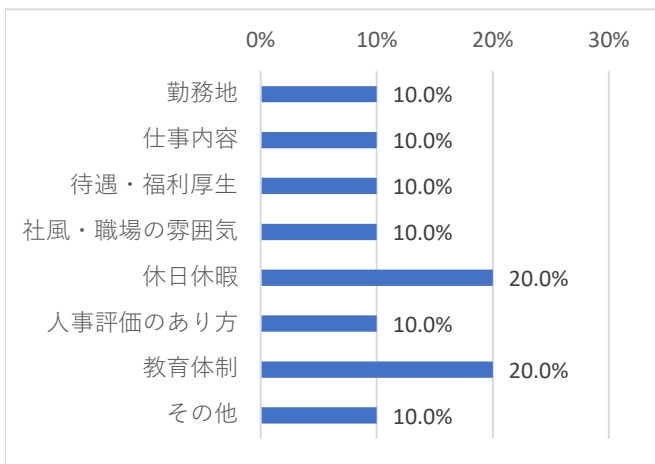
4. 勤務先での雇用形態について (n=53、不明=1)



5. 現在の勤務先について (n=49、不明=5)



6. 転職で重視した項目 (n=5人、回答数10件)

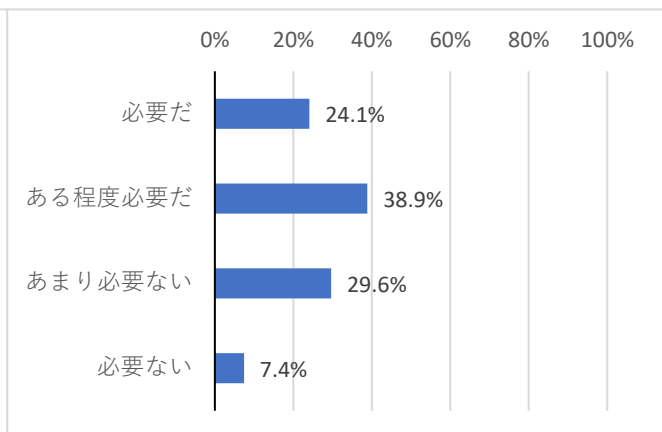
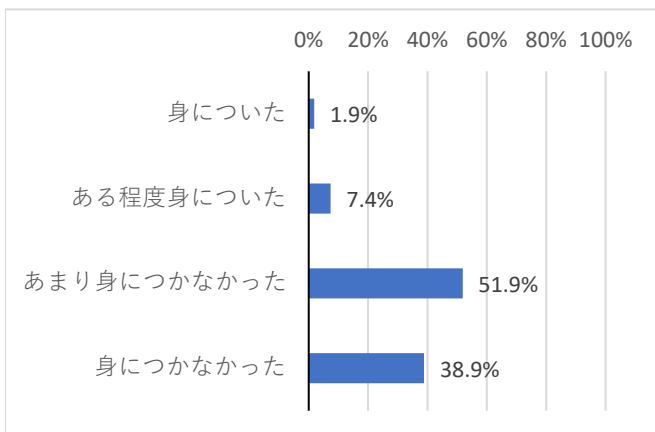


III 大学での学びを通して、下記の能力や資質などはどの程度身につきましたか。また、それは実社会での仕事や社

(大学での学びを通して身につけた能力・資質)

(社会に出て感じるそれら資質・能力を大学時代に身につけておくことの必要度)

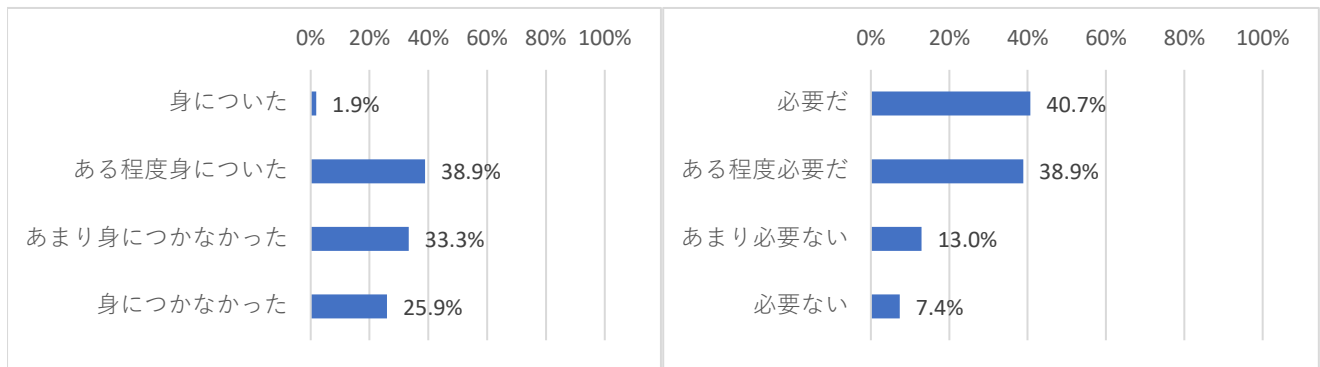
(1) 外国語能力(n=54)



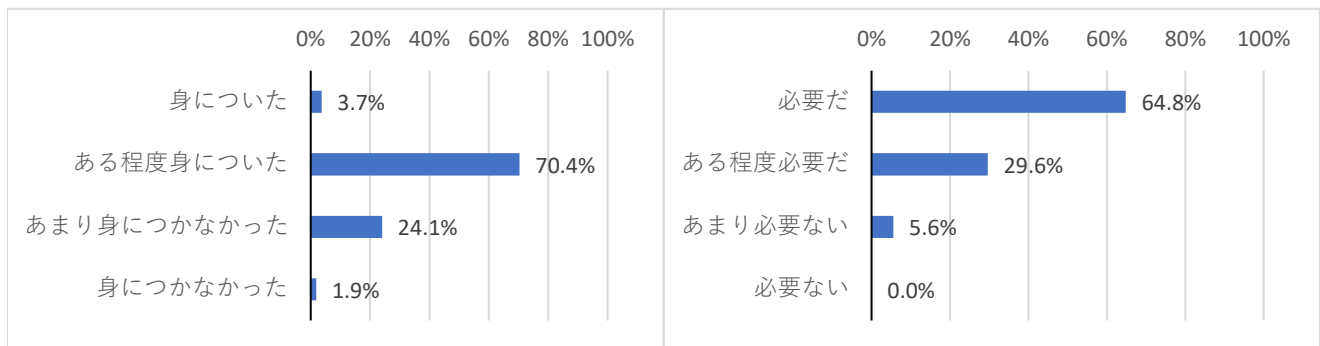
(大学での学びを通して身につけた能力・資質)

(社会に出て感じるそれら資質・能力を大学時代に身につけておくことの必要度)

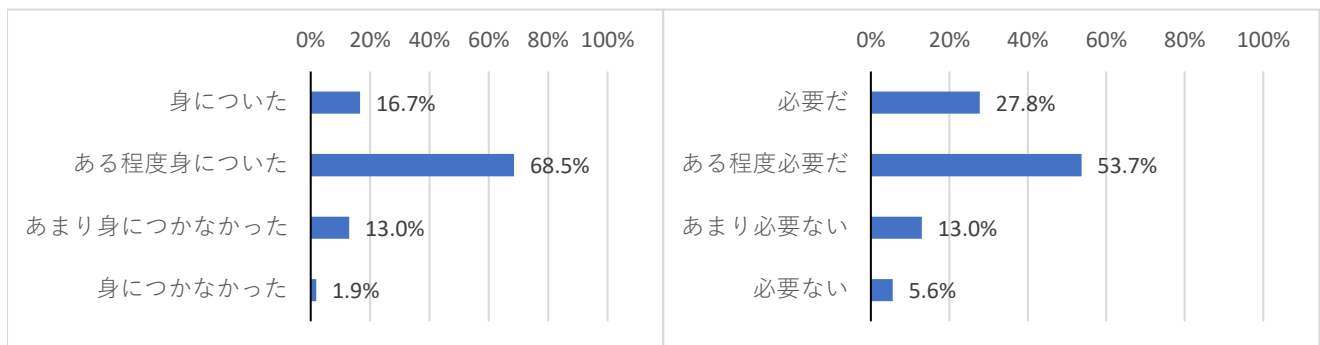
(2) ICTリテラシー (n=54)



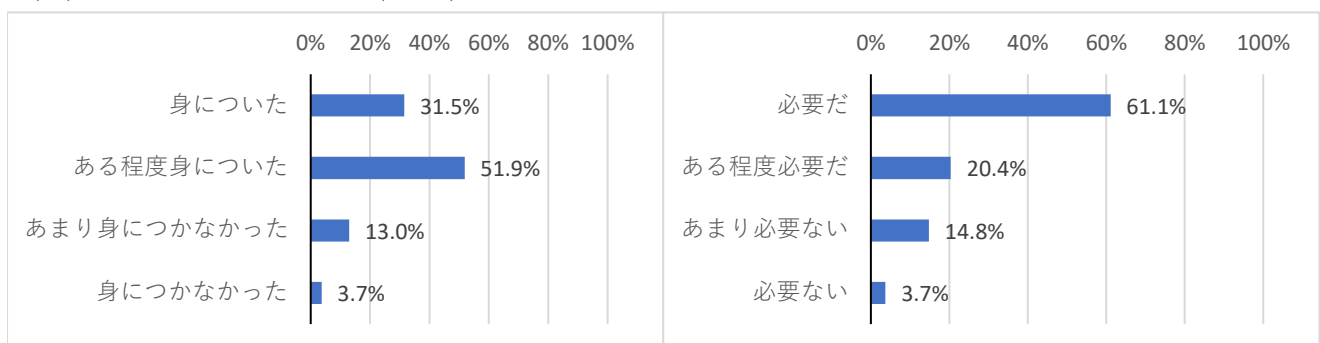
(3) 幅広い知識と教養・一般常識 (n=54)



(4) レポートや論文を書く力



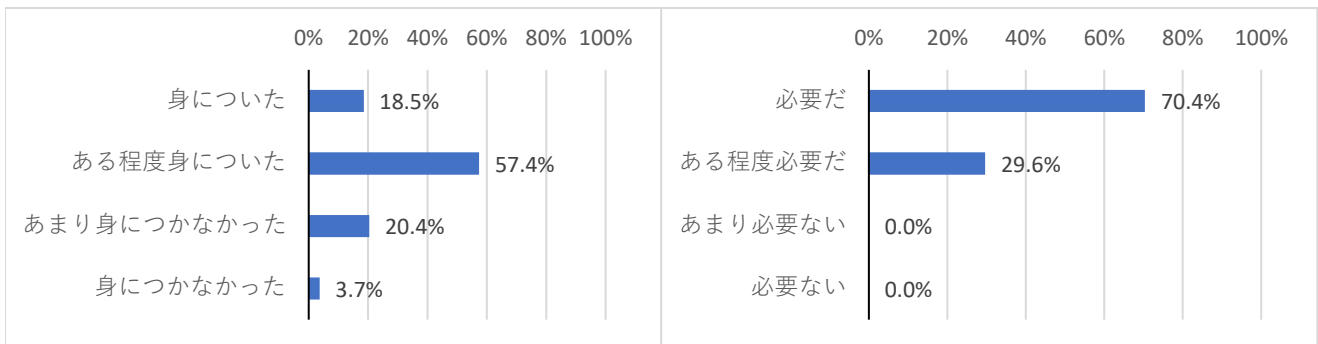
(5) 専門的な知識やスキル (n=54)



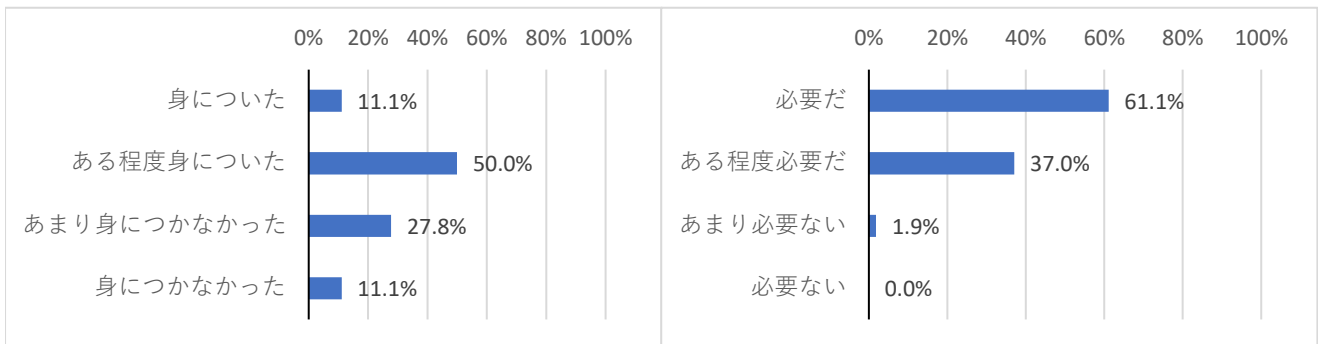
(大学での学びを通して身につけた能力・資質)

(社会に出て感じるそれら資質・能力を大学時代に身につけておくことの必要度)

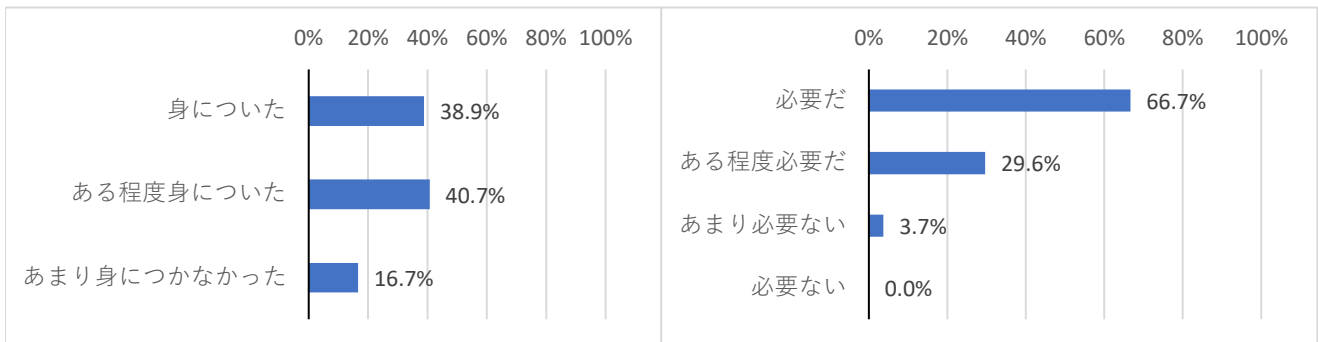
(6) 自主性・主体性 (n=54)



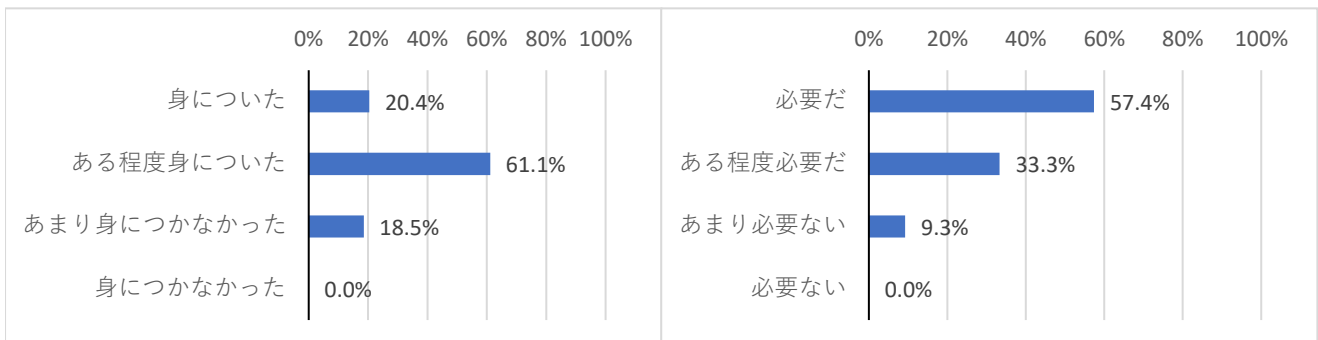
(7) 課題発見と解決能力 (n=54)



(8) 協働性 (一緒に取り組む力) (n=54)



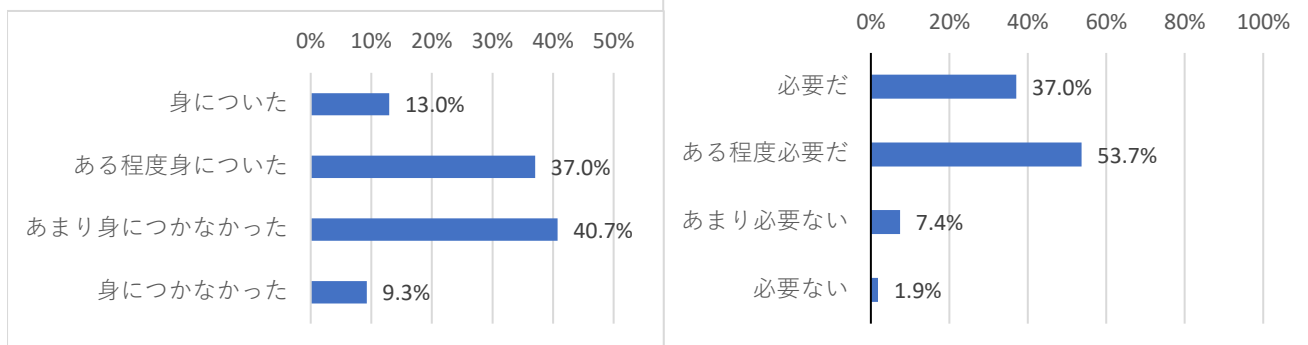
(9) 自分自身のものの見方・考え方 (n=54)



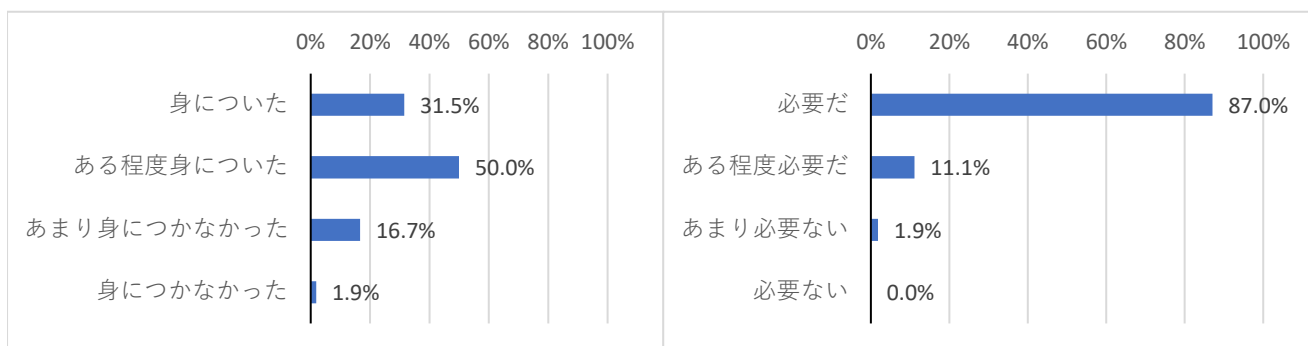
(大学での学びを通して身につけた能力・資質)

(社会に出て感じるそれら資質・能力を大学時代に身につけておくことの必要度)

(10) プレゼンテーション力 (n=54)



(11) コミュニケーション能力 (n=54)



(参考資料：学科別・年度別の送付者数)

(人)

	2017年度卒業生		2018年度卒業生		計	
	送付数	卒業生数	送付数	卒業生数	送付数	卒業生数
日本伝統文化学科	12	18	12	21	24	39
国際言語文化学科	8	13	12	19	20	32
福祉心理学科	11	17	10	16	21	33
臨床心理学科	36	56	27	42	63	98
健康・スポーツ心理学科	28	44	21	33	49	77
子ども学科	91	142	87	136	178	278
経営学科	33	51	62	97	95	148
計	219	341	231	364	450	705

2019年度 東京成徳大学卒業後アンケート結果の主要Facts

1. 就職先企業の属性

- (1)業種 「教育・学修支援」「医療・福祉」「サービス業」が上位3項目で計55.3%
(2018年度)「医療・福祉」「教育・学習支援」「卸売・小売業」が上位3項目で計68.9%
- (2)勤務形態 「正社員」 92.50% (2018年度:77.8%)
- (3)現在の勤務状況 「卒業時と同じ」 87.80% (2018年度:86.7%)
「卒業後に転職」 10.20% (2018年度:13.3%)
「現在無職」 2.00% (2018年度: 0.0%)
- (4)転職理由 「教育体制」「休日休暇」が各20.0%で最多、「勤務地」「仕事内容」「待遇福利厚生」「社風・雰囲気」「人事評価」「その他」は各10.0%
(2018年度)「仕事内容」「社風・職場の雰囲気」「労働時間」が各20.0%
「勤務地」「年収」「会社の将来性」「事評価」「教育体制」「その他」が各6.7%

2. 「大学の学びを通して下記の能力、資質がどの程度身についたか」と「社会に出て感じるそれらの資質や能力を大学時代に身につけておくことの必要度」について

■ :好転、青字:上位、赤字:不足度大

学修内容(「学修調査」をベースとする)	①大学の学びでどの程度身についたか		②実社会の仕事、社会的活動でどの程度必要性を感じるか		①-② (修得度不足)
	2109年度	2018年度	2109年度	2018年度	2019年度
1. 外国語能力	1.7	1.8	2.80	1.7	-1.1
2. ICT リテラシー	2.2	2.6	3.13	2.8	-1.0
3. 教養・基礎的スキル 幅広い知識と教養・一般常識 レポートや論文を書く力	2.8	3.0	3.59	3.0	-0.8
	3.0	3.0	3.04	2.6	0.0
4. 専門知識・スキル	3.1	3.2	3.39	3.2	-0.3
5. 社会人基礎力 自主性・主体性 課題発見と解決能力 協働性	2.9	2.8	3.70	2.7	-0.8
	2.6	2.8	3.59	2.7	-1.0
	3.1	2.7	3.63	3.2	-0.5
6. 総合力 自分自身のものの見方・考え方 プレゼンテーション能力 コミュニケーション能力	3.0	3.0	3.48	3.0	-0.5
	2.5	2.5	3.26	2.4	-0.7
	3.1	3.2	3.85	3.1	-0.7

(注)①、②は、「身についた=4、ある程度身についた=3、あまり身につかなかった=2、身につかなかった=1」および「必要である=4、ある程度必要である=3、あまり必要でない=2、必要でない=1」とする加重平均値。②の2018年度は質問内容が2019年度とは異なる(「実社会の仕事、社会的活動でどの程度役立っているか」)。

(1) 修得度が高い項目(上位3位)

- 「専門知識・スキル」
- 「協働性」
- 「コミュニケーション能力」

(2) 必要度が高い項目(上位3位)

- 「コミュニケーション能力」
- 「自主性・主体性」
- 「協働性」

(3) 必要度が高いが修得度が低い項目(上位4位)

- 「コミュニケーション能力」
- 「自主性・主体性」
- 「課題発見・解決能力」
- 「幅広い知識と教養・一般常識」

